

第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略
進捗状況報告書
2020年度（令和2年度）

目 次

| | | | |
|--------|--|-------|--------|
| 1 | 基本目標の達成状況 | | P1 |
| 2 | 基本目標ごとの達成状況 | | |
| | 基本目標 1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり | | P2～3 |
| | 基本目標 2 安心して働けるまちづくり | | P4～5 |
| | 基本目標 3 住んでみたい、訪れてみたいまちづくり | | P6～7 |
| | 基本目標 4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり | | P8～9 |
| <参考 1> | 第 2 期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略 数値目標・重要業績評価指標 (KPI) 一覧 (年度毎) | | P10～11 |
| <参考 2> | 大村市の人口推移及び人口ビジョンにおける人口推移 (予測値) | .. | P12 |

第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況報告（2020年度）

本市の更なる発展と活力のある地域社会構築のため、2025年に人口10万人を目指す「大村市人口ビジョン」及び「第1期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2019年度）」を2015年12月に策定し、様々な取組を実施した。

そして、第1期総合戦略の取組実績や国の施策、本市を取り巻く状況等を踏まえ、2020年3月に「第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2025年度）」を策定した。（※2021年3月に一部改訂）

「第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、4つの基本目標の実現に向け、6つの数値目標と27の重要業績評価指標（KPI）を掲げ、毎年、進捗状況（実績）を取りまとめることとしており、本報告は、初年度となる2020年度の実績を示すものである。

1 基本目標の達成状況

基本目標に掲げる6項目の数値目標の初年度（2020年度）における実績は、以下のとおりであるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、厳しい結果となった。

| 基本目標 | 数値目標 | 基準値 | 2020年度（令和2年度） | |
|------------------------------|---|----------------------------------|---------------|-----------------|
| | | | 目標 | 実績 |
| 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり | 合計特殊出生率を、2025年までに2.0 | 1.90 (2018年) | 1.90 | 1.72 (2019年) |
| 安心して働けるまちづくり | 大村市産業支援センター又は創業塾を介した創業件数を、2025年度までに累計105件 | 74件 (2019年度) | 80件 | 87件 |
| | 新工業団地への就業者数を、2025年度までに1,000人 | 0人 (2019年4月分譲開始) | 500人 | 33人 |
| | 農林水産業の新規就業者数を、各年度16人増加 | 16人 (2018年度) | 16人 | 23人 |
| 住んでみたい、訪れてみたいまちづくり | 観光客延数を、2025年までに年間260万人 | 197万人 (2018年) | 210万人 | 155万人 |
| ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり | 転入超過数を、2025年までの6か年間で5,000人 | 402人 (2015～18年の4年間1,606人の年平均) | 500人 | 385人 |

2 基本目標ごとの達成状況

基本目標1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり

| 数値目標 | 基準値 | 2020年度（令和2年度） | | 達成状況 |
|----------------------|-----------------|---------------|-----------------|-------------------------------|
| | | 目標 | 実績 | |
| 合計特殊出生率を、2025年までに2.0 | 1.90 (2018年) | 1.90 | 1.72 (2019年) | 2019年は2020年の目標値を0.18ポイント下回った。 |

※ 2020年の合計特殊出生率は10月頃公表予定 【参考】(2018年→2019年) 国 1.42→1.36 県 1.68→1.66

| KPI | | 基準値 | 2020年度（令和2年度） | | 2025年度(令和7年度)目標 |
|-----|--|---|---------------|---------|-----------------|
| | | | 目標 | 実績 | |
| 1 | お見合いシステム、縁結び隊による引き合わせ数 | 98組/年 (2018年度) | 120組/年 | 83組/年 | 120組/年 |
| 2 | 妊婦健診受診率 | 95.9% (2018年度) | 95.4% | 95.1% | 97.0% |
| 3 | 待機児童数 | 70人 (2018年度) | 0人 | 0人 | 0人 |
| 4 | 放課後児童クラブを利用する児童数 | 1,746人 (2018年度) | 2,241人 | 1,841人 | 2,317人 |
| 5 | 子育て支援センターの利用者数 | 113,468人 (2018年度) | 142,000人 | 34,789人 | 142,000人 |
| 6 | 全国学力・学習状況調査（中学国数英・小学国算）平均正答率の全国比（全国を100とした値） | 中学 国語 97.0 数学 97.8 英語 93.8 小学 国語 93.8 算数 94.5 (2019年度) | 100.0 | 未実施 | 100.0 |
| 7 | 学校評価のふるさと教育の項目において、「よい」と評価した児童生徒の割合 | 71.6% (2019年度) | 72.0% | 93.0% | 76.0% |

【主な取組の進捗状況、課題等】

- 1 2018年度から運営している「大村市婚活サポートセンター」において、お見合いシステム及び縁結び隊の登録者の増に努めるとともに、会員向けとサポーター向けのスキルアップセミナーを開催し、会員とサポーターの資質向上に努めた。お見合いシステムの登録者数は増加したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、引き合わせなどの活動件数は減少した。
- 2 妊婦健診受診率は、2019年度の92.8%を2.3ポイント上回り95.1%となったが、目標値を下回った。また、周産期医療支援システムを活用し、支援が必要な妊婦を早期に把握し保健指導を行うとともに、妊婦健診未受診者に対し、通知や電話により受診勧奨を行った。
- 3 KPIとしている「4月1日時点の待機児童数ゼロ」は達成できたが、年間を通じた待機児童の解消には至っていない。

2020年度から大村市こどもセンターに保育コンシェルジュ1名を配置し、保育施設の入所待ち児童に対しマッチングを行うとともに、保育施設の入所や保育に係る全般的な相談を受け待機児童の解消に努めている。
- 4 放課後児童クラブを利用する児童数は、2019年度の1,824人から17人増加し1,841人となったが、目標値を下回った。また、放課後児童クラブの利用児童数の増加に対応するため、新たに3クラブを開設したが、1クラブが廃止となり、全体で53クラブとなった。
- 5 こども未来館おむらんどをはじめとする地域子育て支援センターの利用者数は、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言に伴う臨時休館や入場制限もあり、大幅に減少した。また、地域子育て支援センター1か所を新たに委託し、市内12か所の支援センターを拠点とした子育て支援事業を実施した。今後も、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、様々な不安や悩みを抱えた家庭の子育て支援に対応できるような事業を推進する。
- 6 全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により全国的に取りやめとなった。また、小・中学校教育用ICT機器活用事業において、機器の整備、学習教材（ソフト）コンテンツの充実を進めるとともに、活用法の支援（教員研修、情報共有）を行った。英語力向上対策事業においては、教職員向けの研修を実施するとともに、ALT（外国語指導助手）を活用した英語力向上につながる行事を実施した。
- 7 小中学校郷土史クラブの活動支援については、小学校9校を支援した。また、大村の歴史、風土、文化、産業などを学ぶための取組として、小学校3・4年生の社会科副読本「わたしたちの大村市」を発行し、地域学習の充実を図っている。

基本目標 2 安心して働けるまちづくり

| 数値目標 | 基準値 | 2020年度（令和2年度） | | 達成状況 |
|---|---------------------|---------------|-----|-------------------------------|
| | | 目標 | 実績 | |
| 大村市産業支援センター又は創業塾を介した創業件数を、2025年度までに累計105件 | 74件 (2019年度) | 80件 | 87件 | 2020年度は目標値を7件上回った。 |
| 新工業団地への就業者数を、2025年度までに1,000人 | 0人 (2019年4月分譲開始) | 500人 | 33人 | 2020年度は1社33人となり、目標値を467人下回った。 |
| 農林水産業の新規就業者数を、各年度16人増加 | 16人 (2018年度) | 16人 | 23人 | 2020年度は目標値を7人上回った。 |

| KPI | | 基準値 | 2020年度（令和2年度） | | 2025年度(令和7年度)目標 |
|-----|--------------------------|---------------------|---------------|--------|-----------------|
| | | | 目標 | 実績 | |
| 1 | じげたまグランプリ（隔年開催） 出展商品数 | 14点/年 (2019年度) | 14点/年 | 14点/年 | 20点/年 |
| 2 | 産業支援センターへの年間相談 件数 | 853件 (2018年度) | 900件 | 934件 | 900件 |
| 3 | 大都市での物産展来場者数 | 30,106人 (2018年度) | 24,500人 | 0人 | 30,000人 |
| 4 | 市内高校卒業者の市内企業への 就職率 | 16.5% (2019年度) | 16.9% | 20.3% | 20.0% |
| 5 | 新工業団地売却区画数 | 1区画 (2019年度) | 2区画 | 1区画 | 4区画 |
| 6 | 大村市シルバー人材センター会 員数 | 732人 (2018年度) | 750人 | 731人 | 900人 |
| 7 | 認定農業者数 | 223人 (2018年度) | 255人 | 209人 | 300人 |
| 8 | 認定農業者の平均農業所得 | 435万円 (2018年度) | 460万円 | 422万円 | 520万円 |
| 9 | 農業及び水産業イベント来場者 数 | 27,000人 (2018年度) | 27,000人 | 8,898人 | 28,000人 |
| 10 | 市産品応援店数 | 0件 (2018年度) | 5件 | 6件 | 10件 |

【主な取組の進捗状況、課題等】

- 1 おおむらじげたまグランプリは隔年開催となっており、2019年度に開催したため、2020年度は開催していない。（※2020年度実績は2019年度と同じ値としている。）2021年度は10月開催を予定しており、新たな商品開発に対する支援を行う。
- 2 産業支援センターへの相談件数は、相談をより受け付けやすくするため相談体制を見直した結果、ITを活用した販路拡大やPR等の相談が増加したため、目標値を上回った。
- 3 大都市での物産展は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催することができなかった。2021年度は、感染状況を踏まえ、開催時期や規模を考慮し実施を検討する。
- 4 市内高校卒業者の市内企業への就職率は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による生徒・保護者の地元志向の高まりもあり、目標値を上回る結果になったと考えられる。また、市内高等学校の進路担当者及び市内事業者を交えた意見交換を2016年度以降毎年1~2回実施していたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、書面による意見調査を実施した。さらに、市内の高校2年生を対象に市内企業説明会を2017年度以降毎年1回実施しており、2020年度も1回開催した。
- 5 新工業団地は、2019年4月から4区画約12.4ヘクタールの分譲を開始し、このうちの1区画約1.7ヘクタールについて、嶋本ダイカスト株式会社及びマコー株式会社の2社に対し売却を完了している。
残りの3つの区画10.7ヘクタールについて、2020年度から長崎県産業振興財団へ職員1名を派遣し、長崎県や長崎県産業振興財団と情報共有を図りながら、早期の売却に向け取り組むこととしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により誘致活動等が制限されたこともあり目標値を下回った。
- 6 大村市シルバー人材センターの会員数は、会員が制作した会員獲得のための広報ビデオを市内のケーブルテレビで放映するなどの取組が行われたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により従来の会員獲得のための活動が制限されたことから、目標値を19人下回った。しかしながら、当センターは入会率や就業率などにおいて全国トップクラスの実績を上げている。
このため、地域社会の貢献度が高くシルバー人材センターの模範となる事業運営が行われているとして、2021年6月に全国シルバー人材センター事業協会表彰を九州ブロックで唯一受賞している。
- 7 認定農業者数は、高齢化に伴う離農者の増加により目標値を下回った。このため、認定農業者に対する融資や補助など国からの支援制度と別に、2020年度から市独自の補助制度を設け認定農業者の育成と支援を行っている。
- 8 認定農業者の平均農業所得は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による農作物の需要減のほか、2020年7月豪雨災害などの影響による出荷減少などにより、目標を下回った。
- 9 農業及び水産業イベント来場者は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「海と大地の感謝祭」や直売所などでのイベントが中止または縮小開催となったため目標を大きく下回った。このような中、県のガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、「牧場まつり」や「浜んこらあさいち」が開催されるなど、農産物や水産物の地産地消に努めた。
- 10 市産品応援店数は、2020年度中に新たに2店舗の登録があったため全体で6店舗となり目標値を上回った。引き続き登録店舗の紹介とあわせ、新たな登録店舗の開拓を行いながら大村産品のPRに努めていく。

基本目標 3 住んでみたい、訪れてみたいまちづくり

| 数値目標 | 基準値 | 2020年度（令和2年度） | | 達成状況 |
|------------------------|------------------|---------------|-------|---------------------|
| | | 目標 | 実績 | |
| 観光客延数を、2025年までに年間260万人 | 197万人 (2018年) | 210万人 | 155万人 | 2020年は目標値を55万人下回った。 |

| KPI | | 基準値 | 2020年度（令和2年度） | | 2025年度(令和7年度)目標 |
|-----|-----------------------------------|---------------------|---------------|----------|-----------------|
| | | | 目標 | 実績 | |
| 1 | 市内宿泊施設の延べ宿泊者数 | 379,939人 (2018年) | 391,000人 | 332,199人 | 450,000人 |
| 2 | 外国人観光客宿泊者数 | 2,257人 (2018年) | 2,710人 | 460人 | 5,000人 |
| 3 | 移住・定住相談件数 | 63件 (2018年度) | 120件 | 117件 | 120件 |
| 4 | 移住件数（大村市及びながさき移住サポートセンターを介した移住件数） | 34件 (2018年度) | 36件 | 47件 | 36件 |

【主な取組の進捗状況、課題等】

1 2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市内大型イベントの中止、コンベンションの開催件数の大幅減などで宿泊者数は減少した。このような中、本市の特性を活かした着地型観光の推進施策として、ホルモンをテーマにした夜型コンテンツの開発を図り、ガイド本「ニクアツおおむら」の制作、アウトドアアクティビティコンテンツの開発を図り「のだけ周辺アクティビティマップ」の制作などを行った。

また、感染症や災害などリスクに応じた観光客の安全・安心対策として、サーマルカメラ4台を購入し、コロナ禍における各種イベント等の感染防止対策として活用した。

2 2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、訪日外国人観光客が激減したため、外国人観光客宿泊者数は大幅減となった。このような中、収束後を見据え、観光パンフレットの外国語版の制作のほか、大村市グリーン・ツーリズム推進協議会HPの多言語対応改修に対する補助、農家民泊施設への翻訳機導入費の助成を行った。

また、前年度に引き続き市内観光施設へのWi-Fi環境の整備を行った。

3・4 移住・定住相談件数は目標値を若干下回ったものの、移住件数は目標値を大幅に上回った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により都市在住者の地方への移住志向が高まったことも一つの要因になったと考えられる。

また、2018年度から移住相談者のワンストップ窓口として設置した「移住コーディネーター」による寄り添い型支援を引き続き行うとともに、2019年度に「プラットおおむら」内の移住相談窓口として開設した「暮らしコンシェルジュ」においてオンライン相談や土日の対応を可能としたほか、県の移住サポートセンターなどの関係機関との連携により相談体制の更なる充実を図った。

さらに、これまで首都圏や福岡圏を中心に実施してきたプロモーションが実施困難となったことから、既存のおおむら暮らしHPやインスタグラムのリニューアル、新たなユーチューブチャンネルの開設により情報発信の充実を図った。

基本目標 4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり

| 数値目標 | 基準値 | 2020 年度（令和 2 年度） | | 達成状況 |
|---------------------------------|--|------------------|-------|------------------------|
| | | 目標 | 実績 | |
| 転入超過数を、2025 年までの 6 か年間で 5,000 人 | 402 人 (2015～18 年の 4 年間 1,606 人の年平均) | 500 人 | 385 人 | 2020 年は目標値を 115 人下回った。 |

| KPI | 基準値 | 2020 年度（令和 2 年度） | | 2025 年度(令和 7 年度)目標 |
|------------------------|------------------------|------------------|-----------|--------------------|
| | | 目標 | 実績 | |
| 1 道路や公共交通の利用に関する市民満足度 | 39.2% (2018 年度) | 40.0% | 47.2% | 50.0% |
| 2 中心市街地歩行者通行量 | 6,264 人/日 (2019 年度) | 7,125 人/日 | 5,756 人/日 | 7,300 人/日 |
| 3 「道の駅 長崎街道鈴田峠」の年間利用者数 | 234,552 人 (2018 年度) | 246,000 人 | 146,152 人 | 250,000 人 |
| 4 大学等との連携協定数 | 4 件 (2018 年度) | 4 件 | 4 件 | 5 件 |
| 5 自主防災組織の結成率 | 54.7% (2018 年度) | 56.5% | 58.1% | 60.0% |
| 6 65 歳以上の中・重度要介護認定者の割合 | 31.2% (2019 年度) | 30.8% | 30.8% | 30.8% |

【主な取組の進捗状況、課題等】

- 1 国道 34 号大村諫早拡幅の事業化や、都市計画道路池田沖田線の整備が進んだことから市民の満足度が高まったものと考えられる。

新幹線を活かしたまちづくり事業については、2022 年秋の西九州新幹線の対面乗換（リレー）方式による暫定開業に向け、新大村駅及び大村車両基地の周辺整備を行った。2021 年度は、新大村駅前市有地（約 25,418 ㎡）の開発事業者の公募・選定を行う。なお、暫定開業の期間が長引くことも考えられ、新大村駅周辺への民間の投資意欲に影響が出る可能性があることなどから、武雄温泉～新鳥栖間の新たな整備方式については、県・沿線市と協力し、速達性・定時性に優れ、新大阪への直通運行が可能となるフル規格による整備を目指していく。

また、地域公共交通ネットワークの再構築のため、地域公共交通再編実施計画に基づき、市街地を運行する路線バスの運行間隔の短縮や、三浦・野岳・萱瀬地区における移動手段の見直し（昼間の時間帯での予約型乗合タクシーの運行）を行った。

- 2 中心市街地歩行者通行量は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、目標値を下回った。

ミライ on においては、緊急事態宣言の発出に伴い 4/18～5/18 が臨時休館となり、再開後もイベントや講演会は延期・中止を余儀なくされたが、このような状況下においても、94 回のイベントを実施し、3,770 人の方に参加いただいた。なお、1 年間の来館者数は約 326,000 人であった。今後も、1 年間の来館者数 60 万人達成に向け、魅力的な図書館づくりを継続する。

また、若者が集まるイベント等の開催事業として、例年、市民交流プラザにおいて市内各校の高校生による「高校生フェス」を開催しており、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止としたが、2021 年度は 12 月開催を予定しており、同世代の若者による賑わい創出を図っていく。

- 3 「道の駅 長崎街道鈴田峠」の年間利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、目標値を大幅に下回った。また、本市の観光・イベント情報の発信と物産品のインターネット販売の促進による交流人口の拡大と地域経済の活性化を図るため、道の駅専用 HP を開設した。

- 4 大学等と連携した地域課題解決に向けた取組としては、例年、県が主催する「地域と大学等の連携推進会議」等において県内他市町と情報共有を行っているが、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により会議が中止となった。今後も引き続き、大学等との連携協定を締結するために情報収集を行っている。 [連携協定締結大学] 長崎大学、活水女子大学、鎮西学院大学、長崎国際大学

また、大学等の誘致推進については、長崎大学情報データ科学部の本市への誘致に向けて長崎大学と協議を進めてきたが、誘致に至らなかった。今後も引き続き、大学誘致の可能性について有識者や関係機関と協議を行う。

- 5 2020 年度中、新たに結成された自主防災組織はなかったが、結成率の算定基礎となる結成組織の所属世帯数が増加したことにより、目標値を上回る結果となった。（結成率(%)=結成組織所属世帯数÷市内全世帯数×100）

2020 年は本市でも大規模災害が発生しており、市民の防災への関心は高まっている。コロナ禍ではあるが、今後も機会を見て未結成の町内会に説明を行い、結成に向けた準備を推進していく。

また、結成後の自主防災組織の組織力強化のため、講話や訓練を行い、住民の防災意識の向上を図る。

- 6 高齢者の健康づくりと介護予防の推進のため、老人会等に対し介護予防教室を開催した。（参加団体 42 団体、実施回数 112 回、参加者延べ人数 1,789 人）

また、高齢者が身近な地域で楽しく健康づくりを続けることができるよう、住民主体の「通いの場」の立ち上げ支援、継続支援を行った。（支援した通いの場：15 か所）

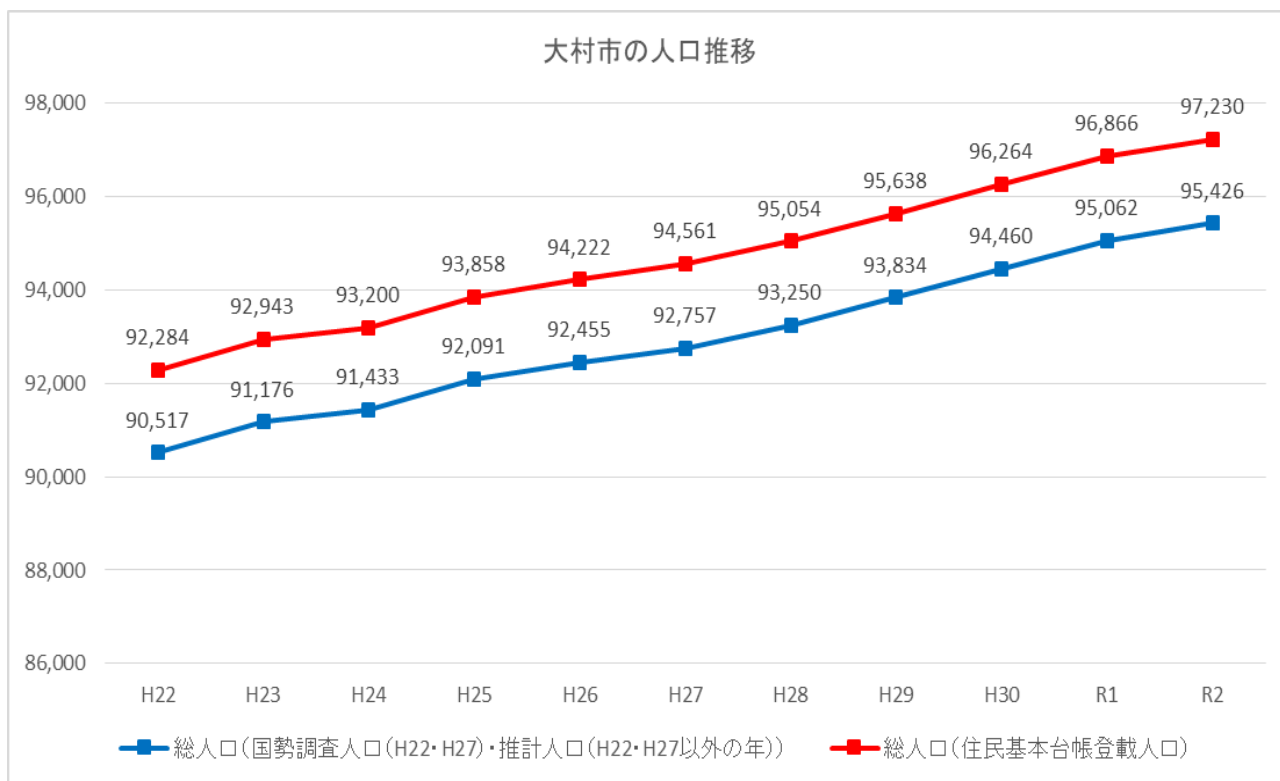
<参考1> 第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略 数値目標・重要業績評価指標(KPI)一覧(年度毎)

| 基本目標 | ○数値目標 / ●KPI | 数値目標及びKPI年次計画値 | | | | | |
|--|--|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | | 2020年度 (令和2年度) | 2021年度 (令和3年度) | 2022年度 (令和4年度) | 2023年度 (令和5年度) | 2024年度 (令和6年度) | 2025年度 (令和7年度) |
| 1 結婚・ 出産・ 子育ての 希望を かなえる まちづくり | ○合計特殊出生率 2025年までに2.00 (2018年:1.90) | 1.90 | 1.92 | 1.94 | 1.96 | 1.98 | 2.00 |
| | ●お見合いシステム、縁結び隊による引き合わせ数 各年度120組 (2018年度:98組) | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 |
| | ●妊婦健診受診率 2025年度までに97.0% (2018年度:95.9%) | 95.4 | 95.7 | 96.0 | 96.3 | 96.6 | 97.0 |
| | ●待機児童数 各年度0人 (2018年度:70人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ●放課後児童クラブを利用する児童数 2025年度までに2,317人 (2018年度:1,746人) | 2,241 | 2,261 | 2,285 | 2,299 | 2,317 | 2,317 |
| | ●子育て支援センターの利用者数 各年度142,000人 (2018年度:113,468人) | 142,000 | 142,000 | 142,000 | 142,000 | 142,000 | 142,000 |
| | ●全国学力・学習状況調査平均正答率の全国比 (全国を100とした値) 各年度100.0以上 (2019年度:中国97.0、中数97.8、中英93.8、小 国93.8、小算94.5) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| ●学校評価のふるさと教育の項目において、「よい」 と評価した児童生徒の割合 2025年度までに76.0% (2019年度:71.6%) | 72.0% | 72.5% | 73.0% | 74.0% | 75.0% | 76.0% | |
| 2 安心して 働ける まちづくり | ○大村市産業支援センター又は創業塾を介した創 業件数 2025年度までに累計105件 (2019年度:累計74件) | 80 | 85 | 90 | 95 | 100 | 105 |
| | ○新工業団地への就業者数 2025年度までに1,000人 (※2019年4月分譲開始) | 500 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| | ○農林水産業の新規就業者数 各年度16人増加 (2018年度:16人) | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 |
| | ●じげたまグランプリ(隔年開催)出展商品数 2025年度までに20点/年 (2019年度:14点/年) | 14 | 16 | 16 | 18 | 18 | 20 |
| | ●産業支援センターへの年間相談件数 各年度900件 (2018年度:853件) | 900 | 900 | 900 | 900 | 900 | 900 |
| | ●大都市での物産展来場者数 2025年度までに30,000人 (2018年度:30,106人) | 24,500 | 25,500 | 26,500 | 27,500 | 28,500 | 30,000 |
| | ●市内高校卒業者の市内企業への就職率 2025年度までに20.0% (2019年度:16.5%) | 16.9 | 17.2 | 17.9 | 18.6 | 19.3 | 20.0 |
| | ●新工業団地売却区画数 2025年度までに4区画 (2019年度:1区画) | 2 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| | ●大村市シルバー人材センター会員数 2025年度までに900人 (2018年度:732人) | 750 | 780 | 811 | 843 | 876 | 900 |
| | ●認定農業者数 2025年度までに300人 (2018年度:223人) | 255 | 267 | 280 | 287 | 294 | 300 |
| | ●認定農業者の平均農業所得 2025年度までに520万円 (2018年度:435万円) | 460 | 472 | 484 | 496 | 508 | 520 |
| | ●農業及び水産業イベント来場者数 2025年度までに28,000人 (2018年度:27,000人) | 27,000 | 27,250 | 27,500 | 27,700 | 27,850 | 28,000 |
| ●市産品応援店数 2025年度までに10件 (2018年度:0件) | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | |

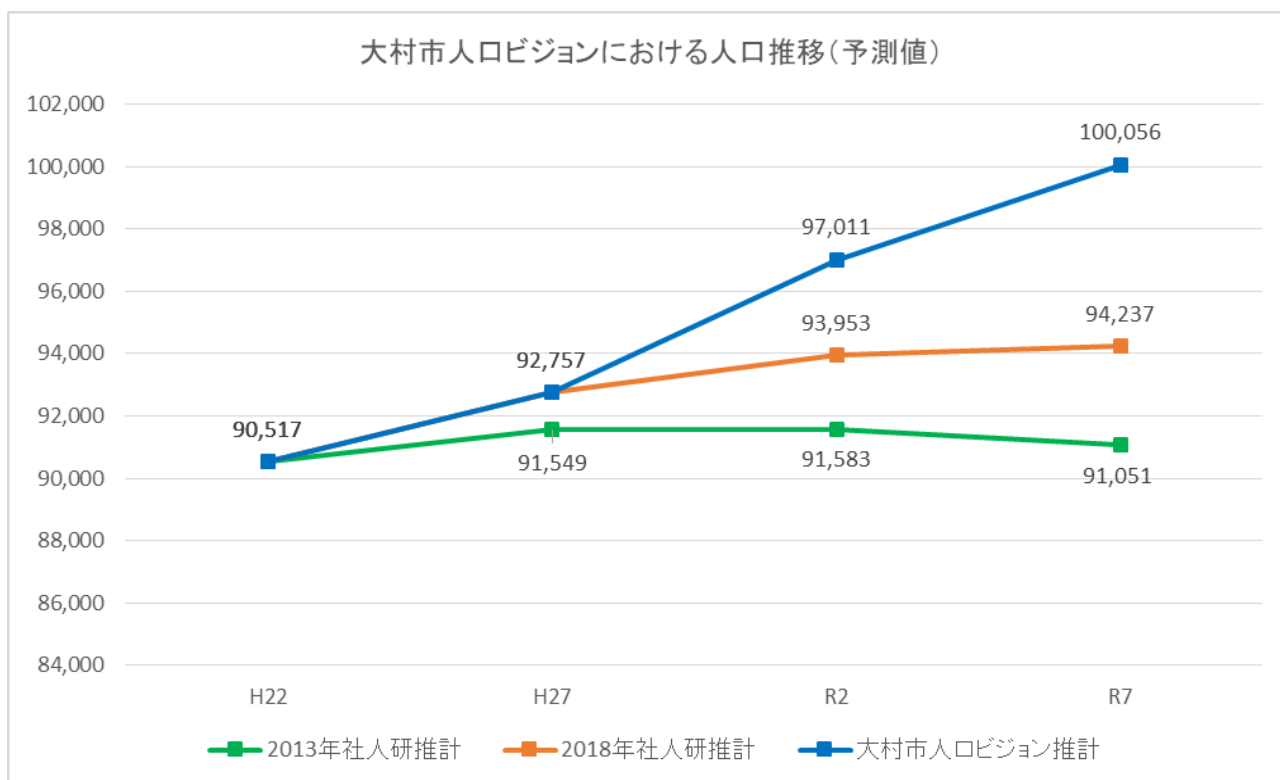
| 基本目標 | ○数値目標 / ●KPI | 数値目標及びKPI年次計画値 | | | | | |
|--|---|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | | 2020年度 (令和2年度) | 2021年度 (令和3年度) | 2022年度 (令和4年度) | 2023年度 (令和5年度) | 2024年度 (令和6年度) | 2025年度 (令和7年度) |
| 3 住 ん で み た い ま ち づ く り 訪 れ て み た い | ○観光客延数 2025年までに2,600,000人 (2018年:1,970,000人) | 2,100,000 | 2,177,000 | 2,283,000 | 2,388,000 | 2,494,000 | 2,600,000 |
| | ●市内宿泊施設の延べ宿泊者数 2025年までに450,000人 (2018年:379,939人) | 391,000 | 403,000 | 415,000 | 427,000 | 439,000 | 450,000 |
| | ●外国人観光客宿泊者数 2025年までに5,000人 (2018年:2,257人) | 2,710 | 3,180 | 3,650 | 4,080 | 4,540 | 5,000 |
| | ●移住・定住相談件数 各年度120件 (2018年度:63件) | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 |
| | ●移住件数(大村市及びながさき移住サポートセンターを介した移住件数) 各年度36件 (2018年度:34件) | 36 | 36 | 36 | 36 | 36 | 36 |
| | ○転入超過数 2025年までの6か年間で5,000人 (2018年:2014年以降5か年間で1,606人) | 500 | 1,000 | 2,000 | 3,000 | 4,000 | 5,000 |
| 4 ひ と が 集 う 魅 力 的 な ま ち づ く り 暮 ら す こ と が で き る | ●道路や公共交通の利用に関する市民満足度 2025年度までに50.0% (2018年度:39.2%) | 40.0 | 42.0 | 44.0 | 46.0 | 48.0 | 50.0 |
| | ●中心市街地歩行者通行量 2025年度までに7,300人/日 (2019年度:6,264人/日) | 7,125 | 7,160 | 7,195 | 7,230 | 7,265 | 7,300 |
| | ●「道の駅 長崎街道鈴田峠」の年間利用者数 2025年度までに250,000人 (2018年度:234,552人) | 246,000 | 246,800 | 247,600 | 248,400 | 249,200 | 250,000 |
| | ●大学等との連携協定数 2025年度までに5件 (2018年度:4件) | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 |
| | ●自主防災組織の結成率 2025年度までに60.0% (2018年度:54.7%) | 56.5 | 57.2 | 57.9 | 58.6 | 59.3 | 60.0 |
| | ●65歳以上の中・重度要介護認定者の割合 各年度30.8% (2019年度:31.2%) | 30.8 | 30.8 | 30.8 | 30.8 | 30.8 | 30.8 |

<参考 2> 大村市の人口推移及び人口ビジョンにおける人口推移(予測値)

※人口は10月1日現在



※推計人口:国勢調査時(5年毎)の人口に、毎月の出生・死亡・転入・転出を加減して算出した人口
 ※住民基本台帳登録人口:住民基本台帳に記録されている住民の数から算出した人口



○人口ビジョンでは、2020年(令和2年)に人口97,011人と予測していたが、実際の総人口(推計人口)は95,426人であった。